

温泉行政をめぐる最近の動き

(温泉施設爆発事故関係)

(平成19年)

6月19日 温泉施設において爆発事故が発生

東京都渋谷区にある温泉利用施設「シエスパ」B棟（温泉汲上施設兼従業員控室）において、温泉とともに汲み上げられた可燃性天然ガス（メタン）が原因と考えられる爆発事故が発生（原因の詳細は警察・消防で調査中）。死者3名、負傷者8名。

6月20日 都道府県に対する緊急措置依頼

東京都渋谷区の温泉施設において爆発死亡事故が発生したことを受け、温泉を利用する事業者等に対し注意を促すとともに、安全管理の実態を把握するよう、自然環境局長より都道府県知事に対し通知（依頼）を行った。

6月28日 関係省庁連絡会議の設置

可燃性天然ガス安全対策に係る関係省庁間の緊密な連携を図ることを目的として、5省庁による連絡会議を設置。

〈環境省（議長）、総務省消防庁、厚生労働省、経済産業省、国土交通省〉

6月29日 温泉に関する可燃性天然ガス等安全対策検討会の設置

温泉に付随する可燃性天然ガスに対する安全対策の検討を行うため、環境省自然環境局に、天然ガスの性状、爆発、保安等の専門家による検討会を設置。

（座長：今橋正征（東邦大学名誉教授））

7月24日 暫定対策の実施

法改正を含む恒久的な対策が実施されるまでの当面の暫定的な対策として、換気設備や検知器の設置等を必要な事業者に要請するよう、自然環境局長より都道府県知事に対し通知（依頼）を行った。

9月13日 有識者会議「中間報告」とりまとめ

6月29日以降5回にわたる検討の結果、温泉に関する可燃性天然ガスに係る安全対策の方向性が「中間報告」としてとりまとめられた。

(別添：新聞報道参照)

渋谷で爆発3人死亡

温泉施設の別棟

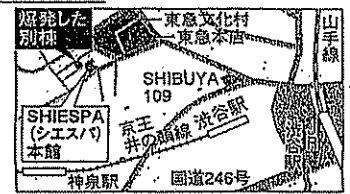
地下1階に
源泉ポンプ
天然ガス引火か

19日午後3時30分ごろ、東京都渋谷区松涛で、女性専用温泉施設「SHIESPA（シエスパ）」の別棟（地下1階地下2階）が爆発して全壊し、中にいた女性従業員ら8人が死に、通行人を含む計8人が重軽傷を負った。爆発したのは、源泉をくみ上げる電動ポンプがある地下1階。監視カメラ映像は、源泉と二階に出る天然ガスの排気装置などに不具合が生じた結果、ガスが充満し、何らかの原因で引火したと判断。業務上過失致死傷の疑いで20日朝から別棟と本館の捜査に乗り出す。（関連記事34・35面）

従業員ら8人けが 監視カメラで捜索



死亡したのは、従業員の藤川広美さん（22）（江戸川区）、アルバイトの日誌真里さん（21）（世田谷区）と千財明美さん（23）（新宿区）。藤川さんと日誌さんは爆発直後に別棟から救出され、千財さんはけがの重さから約4時間後に発見されたが、いずれも直後に死亡が確認された。3人の死亡をめぐっては、男性（28）が逮捕された。



爆発事故のあった温泉施設の別棟。上の茶色っぽい建物は「シエスパ」の本館（19日午後3時44分、渋谷区松涛で、本社ヘリから）＝田中秀敏撮影

ら人が軽傷を負った。被害に遭った従業員らスタッフは別棟にいて爆発に巻き込まれた。当時、スタッフは温泉施設のある本館も含め5人いた。客は本館に約40人いたが、けがはなかった。

監視カメラ映像によると、別棟は地下1階がスタッフ用の休憩所と更衣室で、地下2階は、地下1階から源泉をくみ上げる電動ポンプや貯水機が設置され、通風を換えた本館に源泉を送った後、ボイラーで温める仕組みになっていた。

地中からは、引火性が高いメタンガスを中心とした天然ガスも出ると、別棟では「ガスセパレーター」と呼ばれる装置を使い、源泉を本館に送るまで一度にわたってガスを分離し、屋外に排気していた。

この設備の保守管理を委託された業者は、捜査1週に、前日の18日午後2時の点検では異常はなかったと説明しているという。

捜査1週では、排気したはずのガスが地下1階に充満したことが爆発の原因とみて、20日朝からの捜索と詰めた。

女性専用の会員制スパ

「シエスパ」は、リゾーニ代表、約40世帯、2000ト事業やオフィスビル、6年1月に開設した。サービスを手がける「ユニマックスグループ」（高橋洋一）で、顧客が利用する本館に

スパ、風呂、サウナなど、休憩施設やマッサージを備えた施設。源泉は「温泉施設における細則」を指す「シエスパ」の「シエスパ」との記述もある。この数年、東京・六本木や池袋、横浜など、都市型スパが相

次いで誕生。若い女性中心に人気は高まっている。スパの営業については、官公庁への届け出の義務がなく、施設数は不明。天然温泉を使用する場合、掘削前に都道府県の許可が必要だが、天然温泉を使用しない施設も多い。

電動ポンプやガスセパレーターなどの設備を押し押さえる。また、東京消防庁によると、周辺の建物と近く、駐車していた乗用車などに引火していた乗用車など12台、窓ガラスが割れるなどの被害が出た。

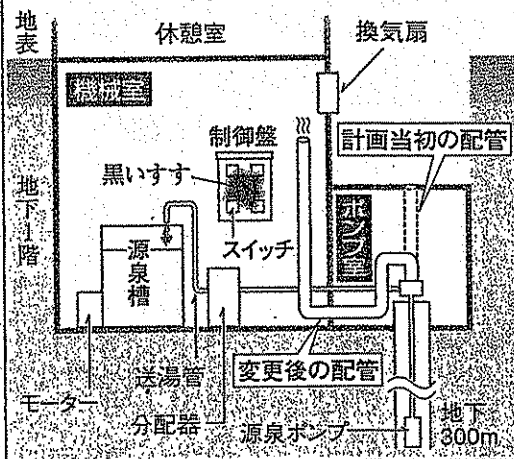
施設を運営する「ユニマックスグループ」は、午後5時前、宮田警察署（28）が記者会見して謝罪する一方、「法令は順守しており、安全上の問題はなかった」と語った。

「制御盤が発火源」強まる

温泉施設爆発1カ月

東京都渋谷区の温泉施設爆発事故で、爆発があったシエスパ別館（B棟）地下1階機械室の制御盤に黒いすすが付着していたことが、警視庁捜査1課などの調べで分かった。すすは爆発時に付着したもので、制御盤内のスイッチが作動した際に発生した静電気が発火源となり、室内に充填したメタンガスに引火した疑いが強まった。事故は19日で発生から1カ月。捜査1課は今後、再現実験で爆発のメカニズムの解明を進める。

シエスパB棟地下の構造



リスク管理怠り 問われる企業倫理

「事業には必ずリスクが伴う。温泉が出ればガスも出るの」は容易に分かること。事業でもうけることしか考えず、リスク管理を怠っていた」一。コンプライアンスに詳しい浜辺陽一郎弁護士は、シエスパを運営する「ユニマットグループ」の企業体質をこう指摘する。

コンプライアンスは一般に「法令順守」と訳されるが、浜辺氏はこの訳語は不完全で、「誤ったニュアンスを伝えてしまう」。違法でさえなければ、何をしても構わないという風潮を招きかねないためだ。

ユニマットの安全対策の不備も、法令違反はなかったとみられる。ガス検知器の設置を義務づける法令はなく、法制度上の死角だったからだ。

だが、事故を起こした責任は免れない。浜辺氏によると、コンプライアンスには、法令を守るだけでなく、社内ルールや企業倫理を整備し、適正で健全な活動を行うという意味が込められているという。

「企業倫理を備え、きちんとリスク管理を行うことが、ビジネスの王道であることを認識すべきだ」（浜辺氏）

調べによると、制御盤とは新たに判明。スイッチには源泉くみ上げポンプと運動するモーターのスイッチが収められていた。貯水槽の水量が減ると制御盤のスイッチが入り、源泉がくみ上げられ、たまる自動的電源を切るようになっていた。

制御盤は源泉からガスを分離する分配器（セパレーター）などがある「機械室」に設置されていたが、現場検証で、制御盤には焦げたような黒いすすが付着していたことが分かった。近隣の騒音苦情に配慮したためという。機械室には大型換気扇が設置されていたことが分かった。捜査1課は換気扇が正常に作動していればガスが充満しなかったとみている。

一方、捜査1課はこれまでに施設運営会社「ユニマットビューティーアンドスパ」の宮田春美社長（40）から任意で事情聴取。同社などを傘下に収めるユニマットグループの高橋洋二代表（64）からもグループ内の組織構造について説明を求めた。宮田社長は「天然ガスを聴く。」

渋谷・温泉施設爆発 あす3ヵ月

東京都渋谷区の温泉施設で女性従業員三人が死亡した爆発事故で、爆発が起きた地下一階機械室の換気扇が正常に作動していた可能性の高いことが十七日、警視庁の調べで分かった。天井の梁（はり）が空気の流れを阻害したため換気扇による排気が不十分となり、天井付近に充満したメタンガスに引火した疑いが新たに浮上。同庁は室内構造に問題がなかったか慎重に調べる。

調べによると、機械室に設置した換気扇は直径約五十センチの業務用。同庁は当初、排気設備に何らかのトラブルがあり、換

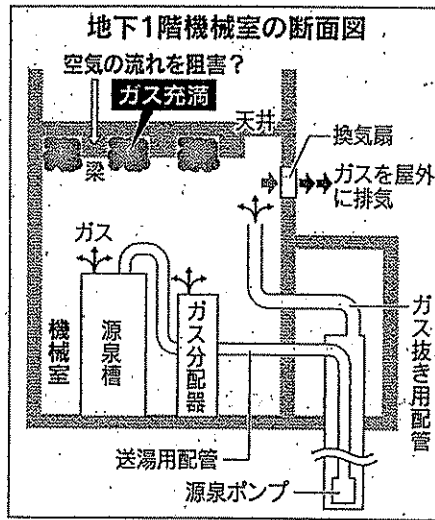
機械室の構造に欠陥か

換気扇は正常作動

気不足のため爆発につながった可能性があるとみていたが、これまでの鑑定結果からは、故障につながる不具合は確認されていない。

保守管理会社の従業員

も「事故前日、換気扇は動いていた」と話しており、事故発生時、換気扇は正常に回っていた可能性が高いとみられる。関係者によると、機械室には天井を支える複数



の梁が室内に張り出すような形で組まれており、換気扇は梁より下の位置の壁に設置していた。同施設では、くみ上げた温泉水からメタンガスを抜く配管を機械室内に引き込み、換気扇で排気する仕組み。室内は、換気扇とは別の場所に設置した直径十センチ程度の外気の吸気口以外は、ほぼ密閉された状態だった。こうしたことから、梁と梁の間に空気より軽いメタンガスがたまっていたにもかかわらず、梁よりも下に位置する換気扇の力だけでは屋外にガス

を十分排気できない状態だったと、警視庁はみている。

同庁は吸気口の大きさが十分だったかなども含め、機械室の構造に問題がなかったか調べる。

事故は十九日で発生から三ヵ月。警視庁は排気の仕組みと合わせ、大爆発を起こすほどの量のメタンガスが漏れた原因について調査しているが、いずれも特定には時間がかかるとみられる。同庁は爆発直前の状況を

再現する実験を行い、爆発に至ったメカニズムの全容解明を進める方針。